

中国社会文化学会ワークショップ

十八世紀の経学

～ 東アジア三国の様相を比較する ～

日時 2017年2月2日(木) 15:00～18:00

会場 東京大学法文1号館 2階 215番教室

(東京大学本郷キャンパス 正門を入り安田講堂の左手前)

開催趣旨:

十八世紀には東アジア三国、清・朝鮮・徳川日本でそれぞれに特徴ある経学が展開した。政治・経済的には「すみわけの海」(羽田正『海から見た歴史』の用語)とされたこの時期、儒教はどのように「すみわけ」ていたのか。江戸儒学研究の最新成果に対する論評と応答を通じて、研究の現状と今後の課題を提示する。

中国詩経学研究と朝鮮四書学研究から評者を迎え、2016年度サントリー学芸賞を受賞した徂徠学研究者との間で横断的な議論を展開していただき、当該時期の三国の共通点と相違点を探っていききたい。

パネリスト

高山大毅 (駒澤大学文学部専任講師、日本思想史)

『近世日本の「礼楽」と「修辞」』が東京大学南原繁出版記念賞およびサントリー学芸賞を受賞。

種村和史 (慶應義塾大学商学部教授、中国詩経学)

宋代の詩経学を研究テーマにしなが、清朝考証学の戴震・段玉裁による詩経研究も分析している。

姜智恩 (国立台湾大学国家発展研究所助理教授、朝鮮儒学)

朝鮮時代後期の四書学における朱子学批判を分析した著作がまもなく東京大学出版会から刊行予定。

事前登録不要・非会員来聴歓迎

資料代 500円 当日受付にて申し受けます

問い合わせ先: 中国社会文化学会 shabun@hyper.ocn.ne.jp